資料－１

令和８年８月２２日　中野市大俣区説明会

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

上今井遊水地の概要
（今後の工事スケジュール等）

令和８年８月２２日
国土交通省北陸地方整備局
千曲川河川事務所

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける遊水地整備 （千曲川大臣管理区間）

（令和8年8月 時点）

- 令和元年東日本台風による洪水を踏まえた信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおいて、千曲川の国土交通大臣管理区間では５箇所の遊水地の整備を行います。
- 令和８年８月時点で上今井、埴生、塩崎遊水地の工事を実施中です。また、蓮遊水地では令和８年９月より、平和橋遊水地では令和８年秋より工事に着手予定です。

用地買収着手；R4.11
工事着手　　；R5.5（起工式R5.5）

用地買収着手；R5.10
工事着手　　；R8年秋予定

用地買収着手；R6.11
工事着手　　；R8.9予定（起工式R8.8.26予定）

用地買収着手；R4.11
工事着手　　；R5.7（起工式R5.5）

用地買収着手；R6.1
工事着手　　；R7.11（起工式R7.8）

＜上今井遊水地整備＞ これまでの動き （令和2年度～令和5年度）

- 上今井遊水地の整備にあたっては、令和２年９月に地元の皆様方により上今井地区遊水地事業に伴う地域づくり対策委員会、翌年令和３年６月に上今井左岸埋立委員会をそれぞれ組織いただき、関係する皆様との各種調整を行っていただいております。
- また、令和３年１月に上今井区、大俣区、栗林区の地元住民の皆様方を対象とした事業計画に関する説明会を開催しております。
- 地元の皆様方、地権者の皆様方のご理解とご協力の下、地元中野市と連携しながら現地調査、施設設計、用地測量を行い、令和４年１１月より用地買収に着手、令和５年５月には起工式を開催、排水樋門工事に着手しています。

（令和２～３年度）
基準点測量、幅杭設置測量、地形測量、地質調査、遊水地施設設計実施

令和２年	９月	上今井地区遊水地事業に伴う地域づくり対策委員会の設置
令和３年	１月	遊水地事業地元説明会（事業案の説明）
令和３年	６月	上今井左岸埋立委員会の設置
令和３年	１０月	遊水地事業（左岸）地元説明会（左岸事業範囲、左岸埋立の説明）
		遊水地事業地元説明会（事業範囲の説明）
令和４年	３月	遊水地事業地元説明会
		（事業範囲、工事手順・用地補償の進め方等に関する説明）

（令和４年度）
基準点測量、幅杭設置測量、地質調査、遊水地施設設計実施

令和４年	１１月	遊水地事業地元説明会（遊水地の設計、左岸施工手順等の説明）
		用地買収着手
		上今井遊水地水理模型実験視察（上今井両委員会）
令和５年	２月	上今井遊水地水理模型実験視察（中野市議会、上今井両委員会）

（令和５年度）
用地測量、基準点測量、地質調査、遊水地施設設計実施

令和５年	５月	上今井遊水地整備起工式
		排水樋門工事に着手
令和６年	３月	遊水地事業（左岸）地元説明会（左岸埋立計画の説明）

令和3年10月　地元説明会の状況
（上今井公民館にて）

令和5年5月　上今井遊水地整備
起工式

＜上今井遊水地整備＞ これまでの動き （令和6年度～現在）

- 令和6年度には、現地状況の確認や地元調整を踏まえた詳細設計、事業の一定の進捗等を踏まえ事業費の変更を行い、上今井遊水地の容量確保のための掘削土砂（約330万m^3）の有効活用先として、上今井左岸地区の埋め立て計画について検討を行いました。
- 埋め立て計画について地元住民、地権者の皆様方にご説明の結果、令和7年3月までに同意をいただき、土砂有効活用のための調整が整ったことから、大量の土砂掘削、掘削土砂の改良・搬出、構造物の施工計画、土砂搬出先等についてさらに検討を行いました。
- 大量の掘削土砂の有効活用先は、上今井左岸地区の埋め立てをはじめ、他の遊水地（蓮遊水地等）、飯山MIZBE（ミズベ）ステーション等の盛土材料として活用を図ることとしました。

（令和６年度）
用地測量、地質調査、遊水地施設設計実施
令和７年３月　左岸埋め立て計画の地元・地権者同意

（令和７年度）
用地測量、地質調査、遊水地施設設計実施
令和７年　５月　左岸埋め立て計画　説明会
令和７年１０月　事業期間変更に関する説明会

上今井遊水地　地内掘削
信濃川水系緊急治水対策プロジェクトの効果発現に必要な容量確保のための掘削
面積　約70ha　掘削土砂量　約330万m^3

土質別	掘削土砂量
粘性土	約250万m^3（約76%）
砂質土	約60万m^3（約18%）
礫質土	約20万m^3（約6%）
計	約330万m^3

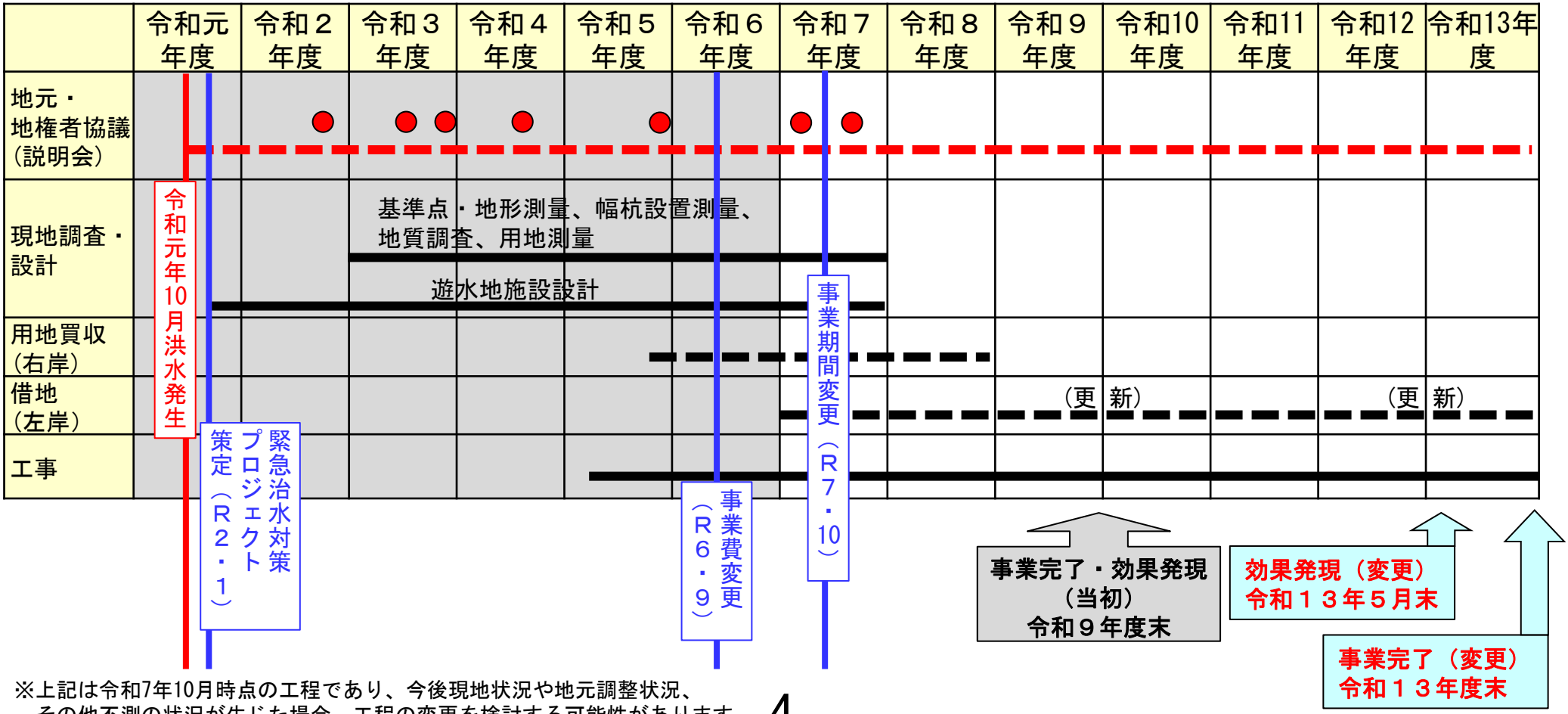
上今井遊水地掘削土砂有効活用先
・上今井左岸地区埋め立て
左岸の民地（農地等）への埋め立て
面積　約24ha　埋立土砂量　約200万m^3

上今井遊水地掘削土砂有効活用先
・他の遊水地（蓮遊水地等）の堤防盛土材料等
・飯山MIZBEステーションの盛土材料
運搬・搬入土砂量　約130万m^3

＜上今井遊水地整備＞　事業期間・事業完了時期の変更

- これまでの各段階で実際に要した期間や進捗状況、工事に要する期間について検討の結果、上今井遊水地の事業期間、事業完了時期（遊水地の効果発揮時期）は当初計画の令和９年度末から令和１３年度出水期前（令和１３年５月末）に変更する必要が生じました。
- 今後は引き続き地元の皆様方のご理解、ご協力をいただきながら、用地買収、工事を安全かつ着実に進め、１日も早い遊水地の完成を目指してまいります。

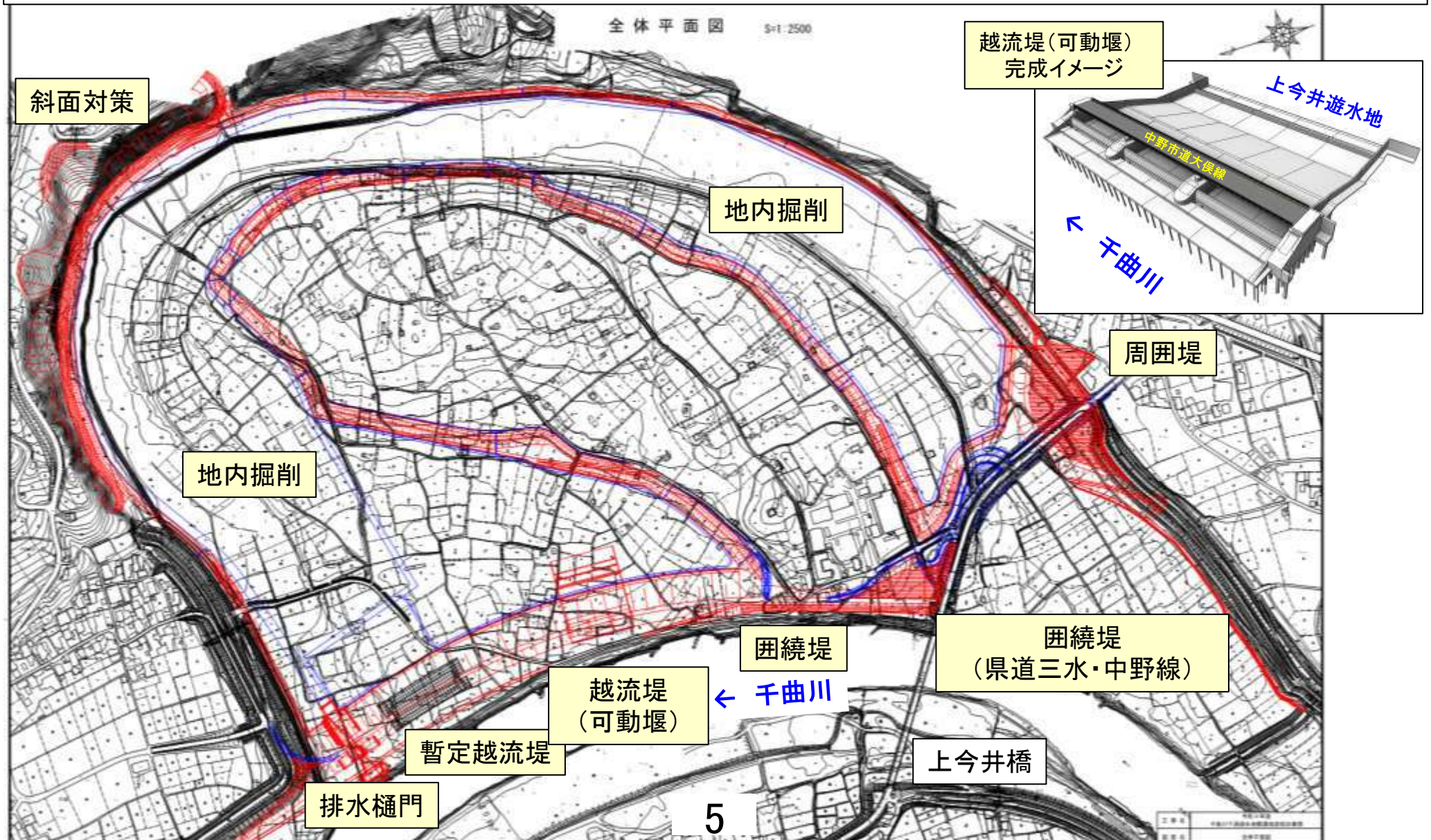
上今井遊水地　これまでの動きと今後の工程（令和7年10月見直し）



※上記は令和7年10月時点の工程であり、今後現地状況や地元調整状況、その他不測の状況が生じた場合、工程の変更を検討する可能性があります。

＜上今井遊水地整備＞　全体平面図

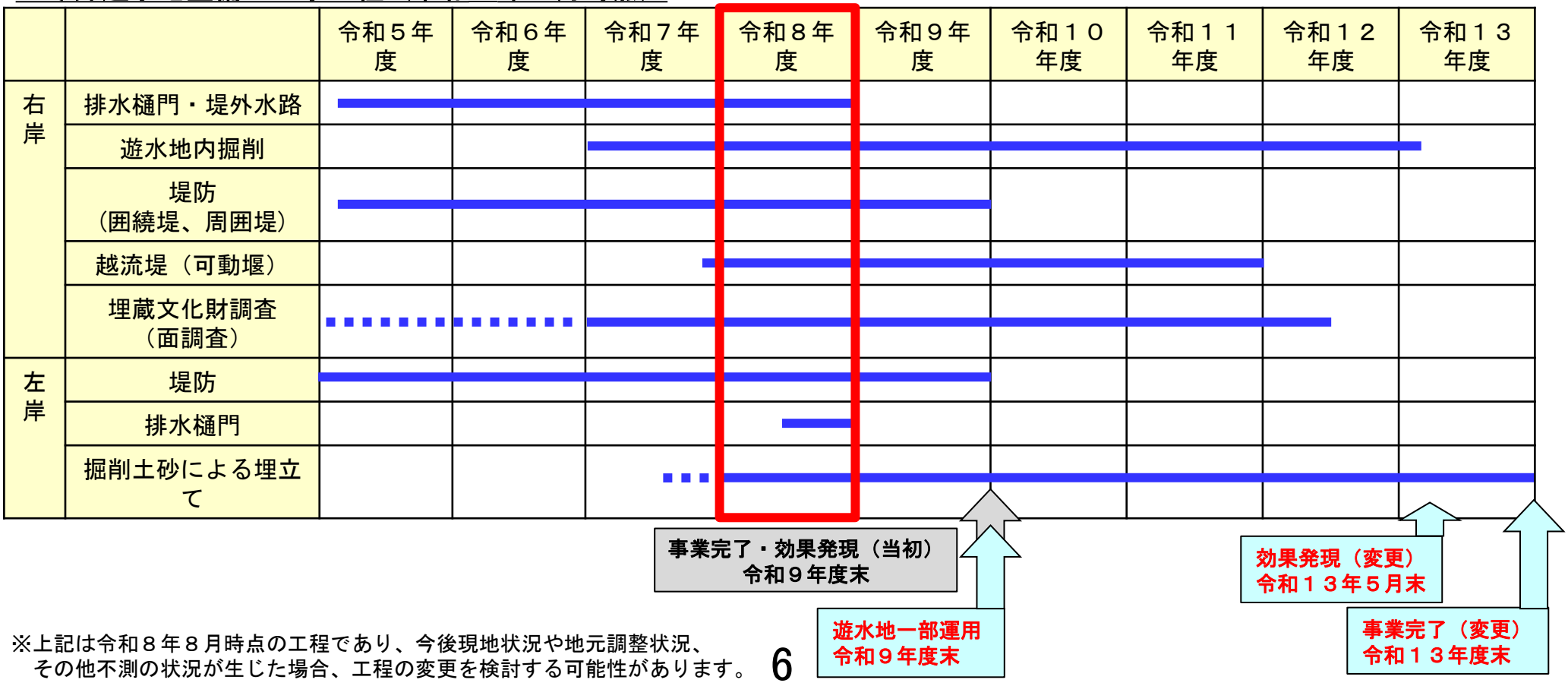
- 上今井遊水地は、囲繞堤（いぎょうてい）、周囲堤（しゅういてい）の整備を行い、遊水地としての器を形成し、その上で全域にわたり掘削を行います。
- 千曲川に面する囲繞堤には、遊水地に水を取り入れる施設、遊水地に一時的に貯留された水を排水する施設を設置します。



＜上今井遊水地整備＞　今後の工事予定（令和8年8月時点）

- 令和８年度は、右岸では昨年度に引き続き、遊水地の堤防（囲繞堤、周囲堤）整備、遊水地内掘削と土砂改良、掘削に伴う斜面対策、埋蔵文化財調査を行うとともに、排水樋門を完成させます。また新たに遊水地へ洪水を流入させるための越流堤（可動堰）の工事に着手します。
- 左岸では昨年度に引き続き、堤防整備、埋め立てに先立っての基盤整備工事を行います。また新たに樋門工事に着手します。
- 令和９年度末までに、遊水地の堤防、遊水地内の一部掘削を完了させることで、遊水地の一部運用開始を目指します。
- 引き続き地元の皆様方のご理解、ご協力をいただきながら、用地買収、工事を安全かつ着実に進め、１日も早い遊水地の完成を目指してまいります。

上今井遊水地整備　工事工程（令和８年８月時点）



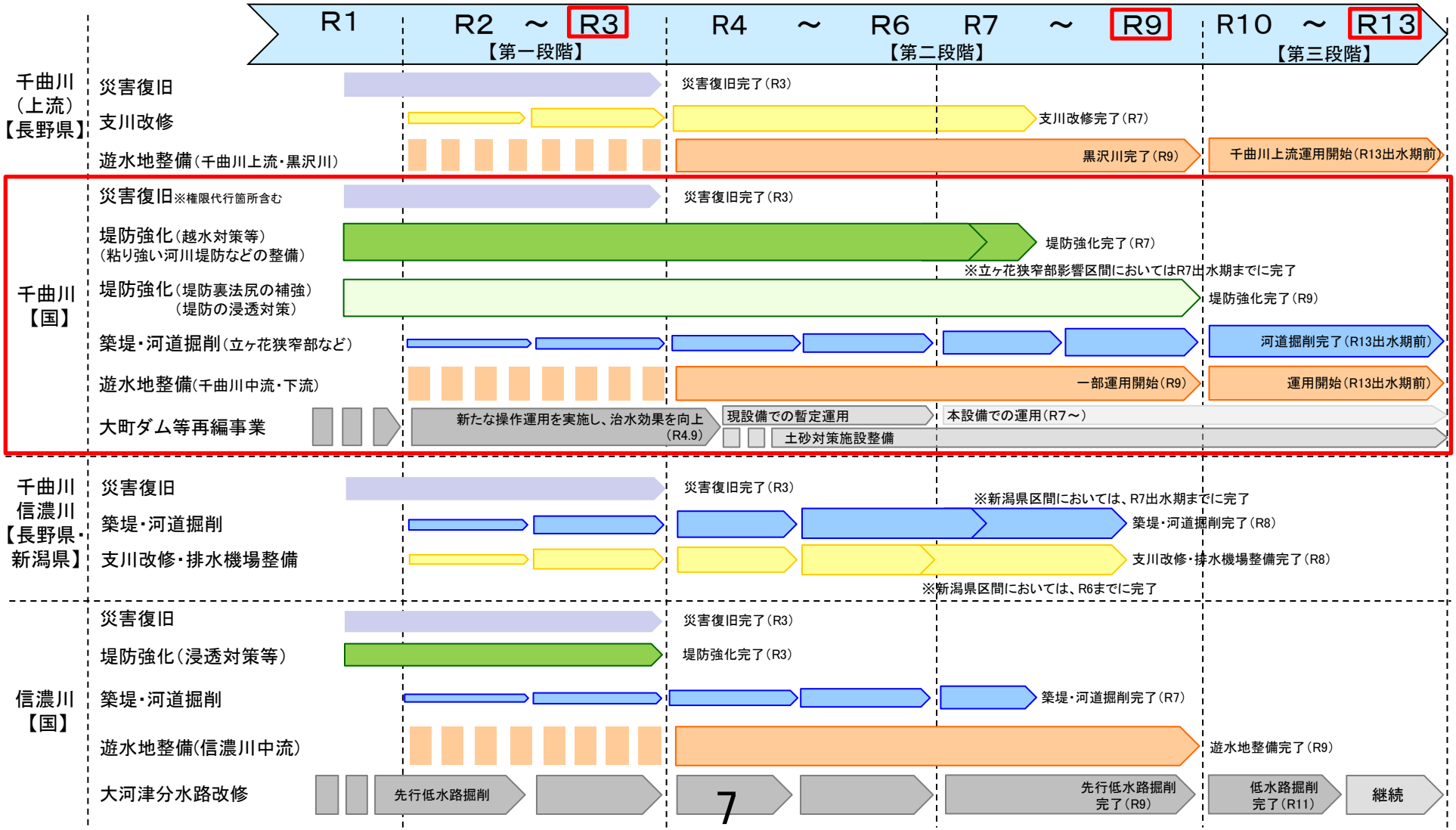
※上記は令和８年８月時点の工程であり、今後現地状況や地元調整状況、その他不測の状況が生じた場合、工程の変更を検討する可能性があります。

～みんなで つなぐ しなの の川～

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 河川における主要の対策ロードマップ

「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階】 令和元年東日本台風による災害復旧について令和3年度までに完了
- 【第二段階】 改良復旧である堤防強化（粘り強い河川堤防構造など）や大町ダム等再編事業（容量再編）を完了
  並びに一部遊水地の運用を開始することで、一定の効果を発現
- 【第三段階】 遊水地、河道掘削（立ヶ花狭窄部など）を令和13年度までに完了
  なお、緊急治水対策プロジェクトで目標とする効果は令和13年出水期前までに発現



＜上今井遊水地整備＞　現地工事状況（令和8年7月30日撮影）

＜上今井遊水地整備＞　現地工事状況（令和8年7月30日撮影）

＜上今井遊水地整備＞　現地工事状況（令和8年7月30日撮影）

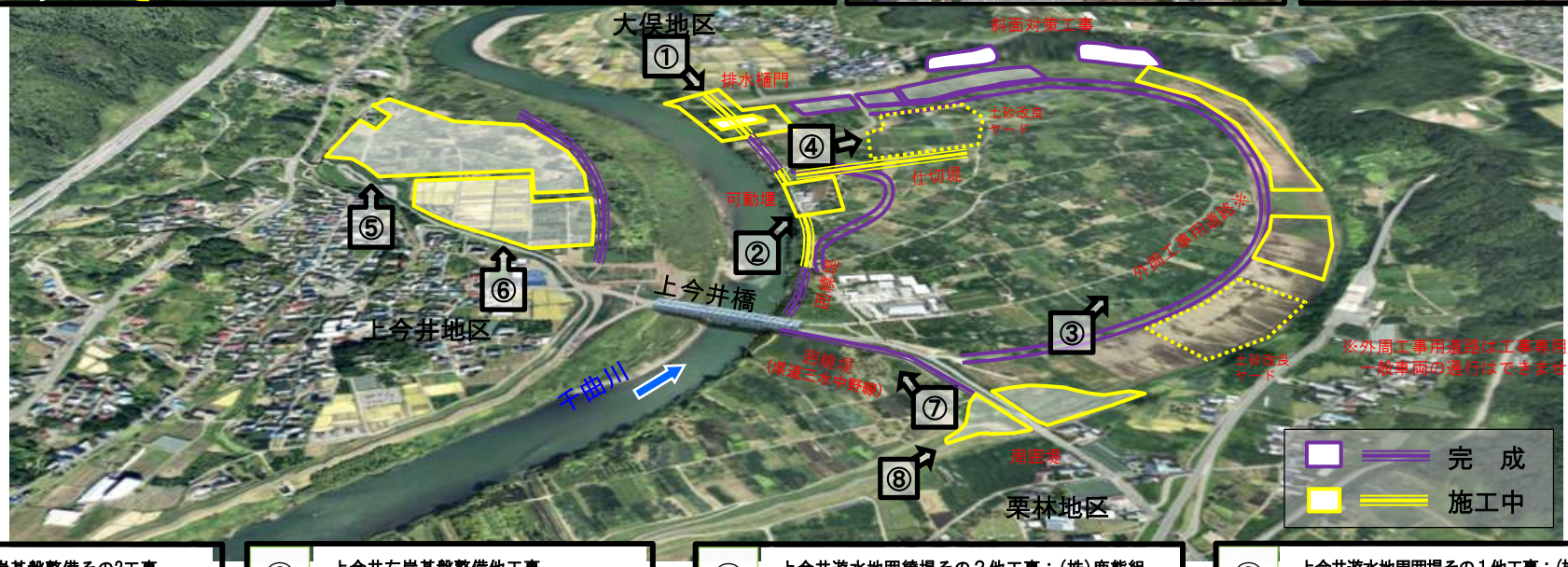
＜上今井遊水地整備＞　工事進捗状況（令和8年7月）

①
上今井遊水地排水樋門その2工事　：川中島建設(株)
上今井遊水地排水樋門その3他工事　：（株）植木組

②
令和７・８・９年度千曲川上今井遊水地可動堰
本体工事：（株）錢高組

③
上今井遊水地池内掘削その４他工事：（株）加賀田組
上今井遊水地池内掘削その５他工事：（株）植木組
上今井遊水地池内掘削その６他工事：藤森建設工業（株）

④
上今井遊水地池内掘削その７他工事：（株）鹿熊組
上今井遊水地池内掘削その８他工事：（株）北條組
上今井遊水地池内掘削その９他工事：（株）フジサワ㈱



⑤
上今井左岸基盤整備その2工事
(株)北條組

⑥
上今井左岸基盤整備他工事
中野土建(株)

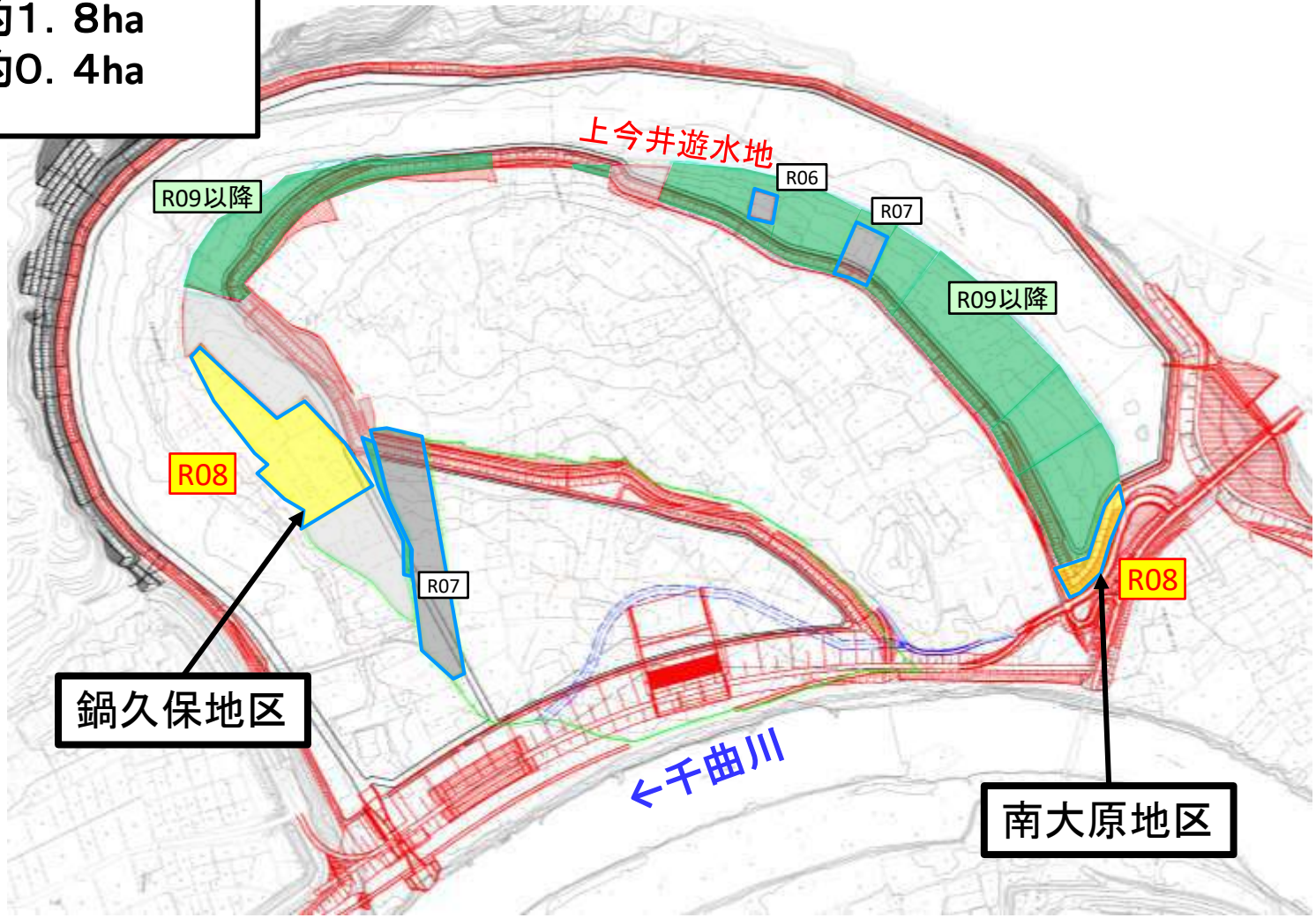
⑦
上今井遊水地囲繞堤その２他工事：(株)鹿熊組
上今井遊水地囲繞堤その３他工事：(株)北條組

⑧
上今井遊水地周囲堤その１他工事：(株)ﾌｼﾞﾜ㈱
上今井遊水地周囲堤その２他工事：中信建設(株)

＜上今井遊水地整備＞　埋蔵文化財発掘調査　調査範囲（令和8年度）

令和8年度調査範囲
約2．2ha
（内訳）
鍋久保地区　計：約1．8ha
南大原地区　計：約0．4ha

令和8年度の発掘調査は6月より実施中

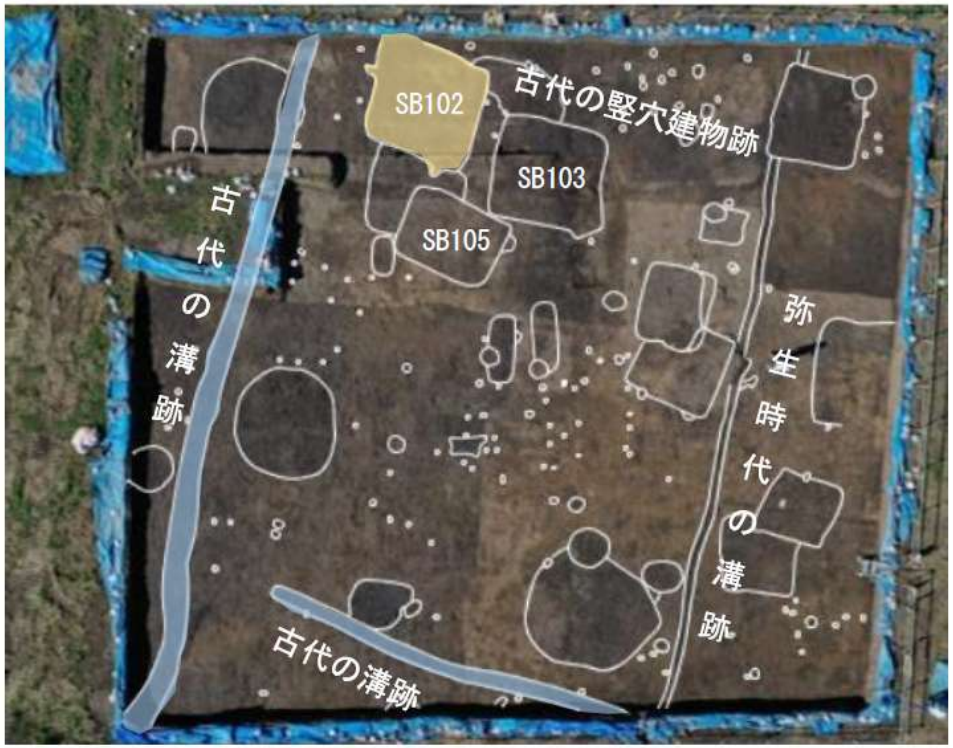


＜上今井遊水地整備＞　埋蔵文化財発掘調査による遺構、遺物検出状況

○南大原遺跡について、どれほどの範囲に遺構・遺物が広がっているのか、どのような遺跡なのかを調査した結果、弥生時代中期後半（今から約2,000年以上前）や古墳時代（今から約1,500年前）、平安時代（今から約1,100年前）の人びとが生活していた様子が分かってきています。

○特に注目される成果は、弥生時代中期後半に、この地で管玉をはじめとする玉つくりが行われていたこと、また北信濃では初めての発見となった10世紀代（平安時代）の集落が見つかったことが挙げられます。

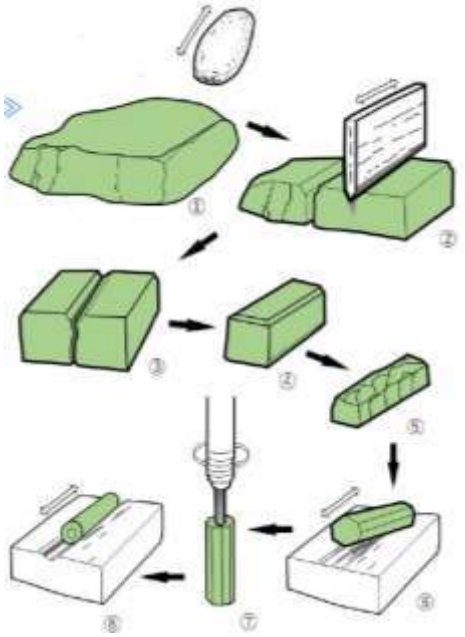
○令和6年度に面調査した南大原地区は、弥生時代に営まれた集落の中でも、モノつくりに特化したエリアであったことが分かってきています。



南大原地区　遺構検出状況

玉つくり関連遺物（弥生時代中期後半）

施溝痕の残る碧玉片（上段・中段左）
玉鋸（中段右）
管玉３点（下段）


管玉の製作工程の一例

＜上今井遊水地整備＞　南大原遺跡舞台地区　竪穴建物跡、カマド

○舞台地区では65軒の竪穴建物跡が発見されています。10世紀後半と11世紀前半の平安時代に建てられたものです。

○建物跡が重なっている部分が多いことから、65軒すべて同じ時期に建っていたのではなく建て替えや引っ越しを繰り返していたそうです。しかし10世紀前半のある時期には30軒以上の建物が建っていたと考えられています。

○調理等をする“カマド”もしっかり残っており人々が生活をしていたことがわかります。カマドはすべて南側に設置してあり、半分は建物の中、半分は建物の外に出ている仕様でした。建物から引っ越す際にカマドじまいの意味を込めてカマドの中に器が入っている建物もありました。

竪穴建物跡

カマドの中心の土が赤く変色しているのは、調理等で火を使っていたため、土が変色している

カマドの跡

○がカマドの跡
カマドの中に食器類がない建物もあるため家々によってかまどじまいの方法が違ったと考えられる

石を積み上げてカマドの基礎を造り土で補強する

カマドの復元模型

＜上今井遊水地整備＞　遊水地の利活用に関する検討（中野市）

- ■ 地元中野市では、上今井遊水地完成後の地内空間の利活用に向けて、令和５年度より中野市役所内で庁内準備会を、令和６年度より庁内検討委員会を開催し、持続可能な利用方策を目指して、民間事業者の公募も含め、関係部局間で検討を実施中です。
- ■ 令和７年４月には、中野市主催で学識者、地元自治会、市内の関係機関等からなる「上今井遊水地利活用検討協議会」が設立され、具体的な検討を開始されました。
- ■ 今後、中野市役所内の庁内検討委員会で利活用方針・計画の素案を検討のうえ、協議会へ提案し、協議会の意見を踏まえ、令和１１年度中を目途に、利活用方針・計画のとりまとめを行う予定です。

■利活用検討の進め方（利活用検討協議会と庁内検討委員会の概要）

上今井遊水地利活用検討協議会（有識者・地元関係者・関係団体等）

自然環境の創出を図りつつ地域振興に資する持続可能な地内利活用の方向性等について検討し、利活用方針・計画をとりまとめ。

地内利活用案等の提案 ⇅ 提案・意見等

上今井遊水地の地内利活用に伴う庁内検討委員会（委員長：中野市副市長）

中野市役所内の関係部局で実務的な利活用の検討、議論を行ったうえで、上今井遊水地利活用検討協議会へ**利活用の方針･計画素案を協議会へ**提案。

■上今井遊水地利活用検討協議会メンバー（R7年度時点）
（事務局：中野市都市建設課）　※敬称略

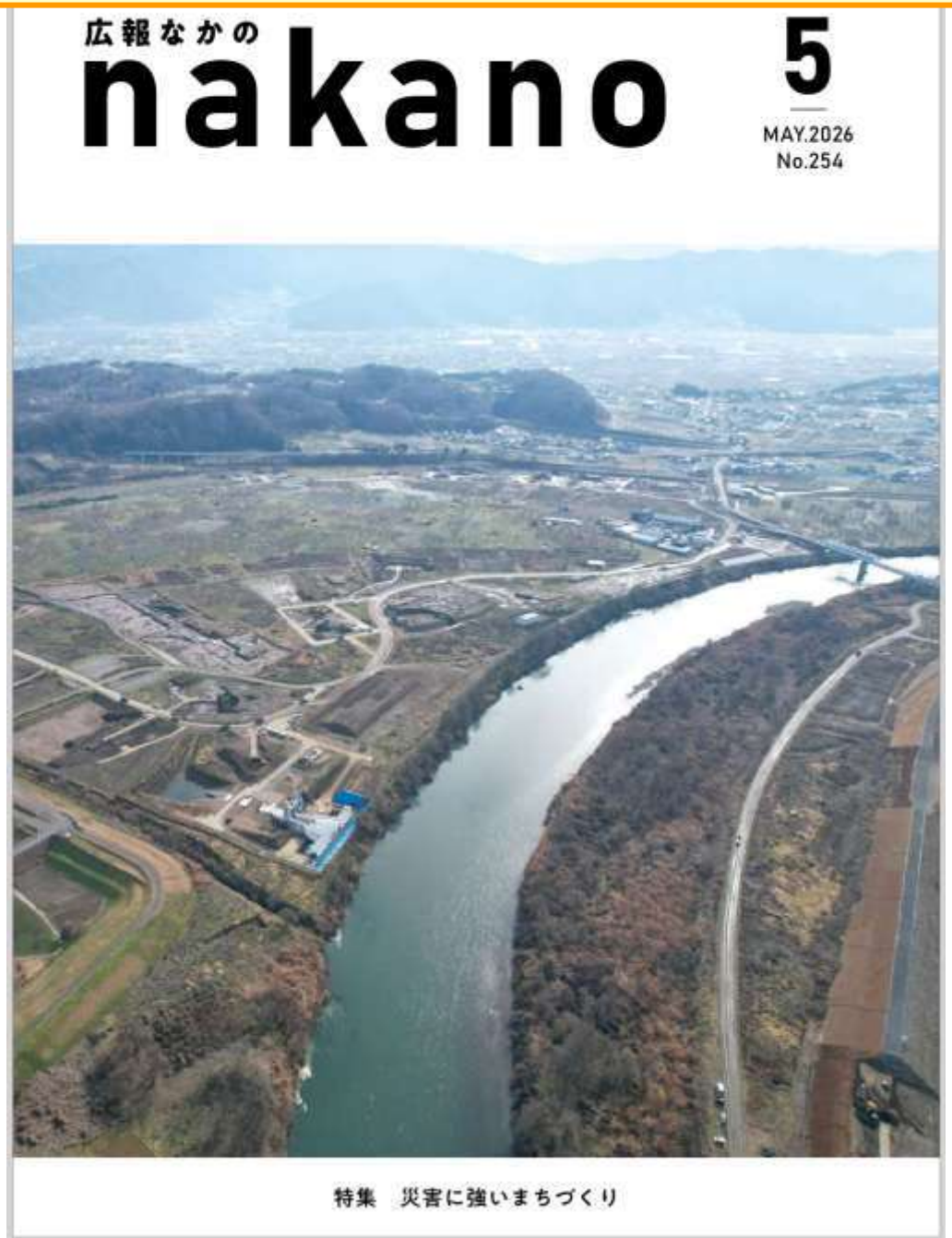
No	選出区分	所属	職名	氏名	備考
1	識見を有する者	長野大学	教授	熊谷圭介	
2		長野工業高等専門学校	教授	酒井美月	
3	関係団体の構成員	上今井区	区長	坂口茂木	地元区
4		大俣区	副区長	栗原清人	地元区
5		栗林区	副区長	浅沼英明	地元区
6		遊水地事業に伴う地域づくり対策委員会	委員長	神田賢孝	地元区対策委員会
7		中野市体育協会	会長	高橋一幸	
8		中野市西部土地改良区	理事長	高橋真一郎	
9		中野市農業委員会	委員	藤田清隆	
10		中野市社会福祉協議会	会長	酒井久	
11		一般財団法人信州なかの産業・観光公社	理事長	沼田拓也	
12		信州中野商工会議所	副会頭	岡澤弘行	
13		中野市農業協同組合	営農部長	上野広樹	
14	関係団体の構成員（国）	国土交通省北陸地方整備局千曲川河川事務所	所長	浅見和人	
15	関係団体の構成員（県）	長野県北信地域振興局	局長	三森和子	

■利活用検討スケジュール（案）

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度
上今井遊水地利活用検討協議会		◎4/23 ◎2/25	第１ステップ 地内利活用の方向性	第２ステップ ゾーニングと必要機能の設定	第３ステップ 事業スキームの検討、利活用方針・計画の策定		行政関係者調整（国・市）	
上今井遊水地の地内利活用に伴う庁内検討委員会	◎8/8	◎9/30						

上今井遊水地運用･利活用開始（R14年度以降）

（ご参考） 広報なかの　5月号で、上今井遊水地整備について紹介いただきました



（ご参考） 広報なかの　5月号で、上今井遊水地整備について紹介いただきました

上今井遊水地整備

令和元年東日本台風による洪水被害を受け、国・県・市町村が連携し進めている治水対策「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」その一つとして、上今井遊水地の整備が進められています。

2023年5月の着工から約3年、プロジェクトの進捗状況と遊水地整備の大切さについて改めて確認しましょう。

遊水地とは？

遊水地は川に接する土地の一部を囲み、洪水時に水を一時的に貯める施設です。

大雨などで川の水位が上がった際、堤防の一部から水を取り込み、遊水地に貯めることで下流の水位上昇を抑えます。貯めた水は河川の水位が下がった後に排水され、再び本流（川）へ戻されます。

遊水地内掘削範囲

遊水地内掘削土砂の改良

越流堤

千曲川

排水樋門

囲繞堤

写真①

写真②

写真③

4月3日撮影

工事の手順

排水施設（排水樋門）整備

堤防整備

越流施設（越流堤）整備

遊水地内掘削

完成

2031年度までの完成を目指します

排水樋門

洪水時に遊水地で一時的に貯留した水を千曲川の水位が低下した後に排水するための施設です。

写真①

遊水地内掘削

遊水地の容量を確保するための掘削を行っています。掘削した土砂は改良を経て上今井遊水地や篠遊水地の堤防の盛土材などに有効活用を図ります。

写真②

遊水地内掘削土砂の改良

堤防は土でできており、洪水による浸食や雨水の浸透に耐える強度が必要です。

上今井遊水地の掘削土は粘土分が多く、そのままでは強度が不足するため、千曲川の掘削で出た砂利などを混ぜて強度を確保します。

写真③

Column

堤防の種類

周囲堤　遊水地全体を囲い、人々の住む場所と遊水地を分ける堤防

囲繞堤　周囲堤で囲まれた遊水地内部と河道部を区切る堤防

越流堤　洪水が一定の水位になった際、遊水地内に流入させるため、囲繞堤の一部を低くしたところ

貯水面積　約70ha
掘削土量　約330万㎥
貯水容量　約640万㎥

事業主体
国土交通省
千曲川河川事務所

上今井遊水地は1872（明治5）年の新川掘りにより付け替えられた旧河道を利用しており、遊水地としての機能を形成する囲繞堤と周囲堤を整備し、貯水容量を確保するための掘削を行います。

Interview

上今井遊水地周辺の上今井、大倉、栗林地区の皆さまをはじめ、市民の皆さまにおかれましては、日頃より上今井遊水地整備へのご理解・ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

上今井遊水地は2019年10月の大洪水による流域の浸水被害防止を目的に策定された「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」に位置付けられた信濃川水系で最大規模の遊水地であり、2022年から用地買収に、23年から工事に着手し、これまでに遊水地の堤防の一部が完成しました。

本年度は、堤防整備、遊水地の掘を確保するための掘削を進めるとともに、遊水地へ洪水を流入させるための越流堤の工事に着手します。

さらに、2027年度末までに遊水地の一部運用開始、31年の洪水期前の5月末までに遊水地の効果発現、同年度末までに事業完了を目指してまいります。

引き続き、安全かつ着実に工事を進め、一日も早い地域の安全・安心の確保に向けて取り組んでまいりますので、皆さまのご理解ご協力をお願い申し上げます。

国土交通省 千曲川河川事務所 千曲川緊急治水対策課長
丸山友之さん